

「原子」で量子計算機開発に挑戦

大森 賢治さん 60
おおもりけんじ



撮影・青木久雄

子供たち 将来の「ライバル」

学校などで講演するたび、自分の時その時の歴史を紹介し「そ

が置かれた状況の中で、やりたいことに全力で取り組もう」と説いてきた。もちろん、量子研究をやりたい若者が増えたらうれしい。「量子コンピューターができるのは10年以上先。その頃、皆さんは私のライバル研究者です」。先月の講演では、中高生らに期待を込めて締めくくった。

多数の鏡とレンズの間を、レーザー光が飛び回る。国際競争が激しい次世代計算機「量子コンピューター」の開発で近年、急速に期待が高まってきた「冷却原子」という方式の実験装置だ。その研究の傍ら、子どもたちに研究の魅力を伝える活動にも力を注ぐ。先月開催されたオンライン講座では、全国の中高生向けに「量子力学10

0年の謎」を熱く語った。

量子力学の大きな謎は、肉眼では見えないミクロの世界で「波」として振る舞う物質が、観測された途端に「粒子」となることだ。その境目で何が起きるのか分からぬ。「その不思議さから丁寧に話し始めると、小学生も膝を乗り出していく」と語る。

20歳頃までロックミュージ

(編集委員 増満浩志)

顔 Sunday

熊本市出身。東大で工学博士を取得し、東北大助教授などを経て、2003年から自然科学研究機構分子科学研究所（愛知県岡崎市）教授。12年に独フンボルト賞。21年に紫綬褒章。